

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果報告と考察

上田市立長小学校

校長 西澤 直記

1 国語

	平均正答数	平均正答率
本校	9.4問 / 14問	67.0%
長野県 (公立)	9.3問 / 14問	66.0%
全国 (公立)	9.4問 / 14問	67.2%

◇「1三(1)ア」の問題は、全国や長野県の平均正答率が50%程度であったが、本校の平均正答率は72.0%であった。本問は「雑草取りを続けたのですが、いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。」の下線部分を漢字に書き直すものであり、同音異義語に注意する必要があったが、多くの児童が文の中で正しく使うことができている、日常における知識の定着が図れていることが伺える。

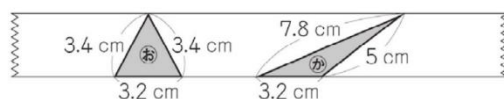
◆一方で、「2四」の問題は、全国や長野県の平均正答率を10%程度下回った。本問は、正答の条件である「資料から分かったことを書くこと」「自分ができそうなことを書くこと」「字数指定」の3つを全て満たさなければならない。引き続き、文章を読んで理解したことに基づいて、比較したり関連付けたりして自分の考えをまとめる指導の充実を図る必要がある。

2 算数

	平均正答数	平均正答率
本校	9.4問 / 14問	67.0%
長野県 (公立)	9.3問 / 14問	66.0%
全国 (公立)	9.4問 / 14問	67.2%

◇「1(3)」の問題は、「思考・判断・表現」を評価する問題の中でも、平均正答率が全国や長野県に比べて比較的高かった。本問は、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみるものであった。日頃から、答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、求め方について論理的に説明する活動が位置付けられていることが伺える。

◆一方で、「2(4)」の問題は、全国や長野県の平均正答率が20%程度の中、本校は12.0%にとどまった。本問は、底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できることをねらっていたが、高さ以外の情報に目を奪われ、正答を導く過程において戸惑いが生じたと考えられる。よって、底辺や高さ等の言葉の理解を含む操作活動を通して、「高さとは何か」等の言葉の本質に迫る学習を仕組む必要がある。



3 児童質問紙

◇児童自身に関わって、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童が96.0%であることや、「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童が96.0%であることから、本校6年生児童は、自己肯定感の高い傾向にあることが伺える。

◆一方で、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」については、比較的課題があると捉えられる。昨今、今自分にとって何が必要であり、そのために何をすべきなのかを計画・実行する力が求められる中で、自ら未来を切り拓く力を育むような環境を模索していく必要がある。

上田市立長小学校
担当 若林 史也
電話 72-2012